

N I E 家庭支援論演習の実践報告 －保育学科学生を中心に－

Report on Practice of an NIE Home Support Theory Activity Focusing on Childcare students

(2020年3月31日受理)

松 井 圭 三
Keizo Matsui

Key words : 新聞, 家庭支援, NIE

これまで、保育士養成科目の「社会福祉」、「児童家庭福祉」において、新聞を教材にして、記事内容から関係法律、制度を学習するワークブックを製作してきた。また、このワークブックをそれぞれの科目において使用し、学生の学習効果や新聞に対する考え方等調査し、分析してきた。

今度は、「家庭支援論」科目において、「N I E 家庭支援論演習」を授業で使用し、これまでと同様に学生の学習効果、文章能力の向上や新聞をどのように読んでいるか、どんな記事を読んでいるか、また、新聞を読んでいる時間等について、アンケート調査し、分析した研究である。

1. 目 的

これまでの研究において、本学保育学科における学生の新聞についての意識調査の分析（平成24年度）、学科間の学生の新聞についての意識調査の比較（平成25年度）、異なる学科・学校種間のN I E 実践比較（平成26年度）、N I E 実践後の効果アンケート結果からの各学科の特徴把握（平成27年度）、社会福祉記事ワークブックを用いたN I E 実践（平成28年度）、平成29年度は「児童家庭福祉演習」を作成後、授業で実践し、本学保育学科学生の意識調査を行った。平成30年度は「N I E 社会福祉記事ワークブック」の実践と各分野に関係したテーマについての論文の文章力の変化について分析した。

今年は、保育士養成の必修科目である「家庭支援論」において、他の科目と同様に「N I E 家庭支援論演習」を大学教育出版社から公刊し、同科目において、この演習を授業で実践することにした。実践したのは保育学科2年生で、実践後、同学生にアンケート調査を実施し、学生における授業実践の効果や新聞に対する意識等を調査することにした。例えば、「家庭支援論」に関係した

語句、用語、制度等を調べたことが同科目の学習に役に立ったか、実際に保育の就職等におけるキャリア教育に同演習が、学生に対して役に立ったかどうかや、同演習の実践が学生の文章力向上に何らかの効果があつたのか、どうかを検討した。さらに、この調査結果を通して社会福祉教育におけるN I E 実践の効果を明らかにし、あわせて指導上の課題について考察する。

2. 研 究 方 法

授業で『同演習』を用いて家族、家庭関係の制度や法律の語句を調べたことが「家庭支援論」を学ぶことに役に立ったか、章ごとの主題を学び、感想をまとめた作業が役に立ったか、授業は文章表現の向上に役立ったか、授業の後に以前より新聞を読むようになったか、授業がキャリア教育として役立ったか等について多肢選択式及び記述式にて回答を得た。このアンケート調査は保育学科2年生1, 2組に対し平成31年1月24日に実施した。回答数は96名であった。

回答結果をもとに、保育学科の学生が本実践を通し

て、まず「家庭支援論」を学ぶうえで『同演習』は学習効果が見られたか、新聞を使った授業に対してどう考えているか、また新聞に対してどのような意識を持つようになったか等について検討することにした。

効果の測定については、多肢選択式による量的な把握傾向把握だけでなく、理由についての自由記述の内容対比もあわせて行った。

3. 『NIE家庭支援論演習』とは

2018（平成30）年4月、大学教育出版から発行した。執筆者は松井他18名の新聞社関係、大学教員であり、編集は松井と、兵庫大学小倉、関西女子短大今井の3名で行った。

『NIE家庭支援論演習』の章立て等は、厚生労働省の保育士養成におけるカリキュラムを遵守した。したがって、各執筆者は、この内容を意識し、新聞記事の選択、ワークシート、解説の執筆を行った。章と厚生労働省が示したキーワードは以下のとおりである。

はしがき、このワークブックの利用方法（使い方）

第1章 NIEと家庭支援

第2章 家庭の意義と機能（「家庭とは」、「家庭の意義」、「家庭の機能」、「わが国の家族の特徴」、「家族の形態とその多様化」、「生活の場としての家庭」）（「家庭支援の必要性」、「家族に対するサービスの体系」）

第3章 家庭支援の必要性「家庭支援の必要性」、「家族に対するサービスの体系」

第4章 保育者が行う家庭支援の原理（「保育者が行う家庭支援の原理」、「家庭支援の理念」、「子どもの最善の利益」、「保育者としての家庭支援」）

第5章 現代の家庭における人間関係（「現代の家庭における人間関係」、「夫婦、兄弟姉妹」、「三世代家族」）

第6章 地域社会の変容と家庭支援（「地域社会の変容と家庭支援」、「地域社会の変容」、「産業構造の変化」、「近隣住民による子育て支援活動」、「子育てしやすい地域社会の形成」、「生活の社会科」）

第7章 男女共同参画社会とワークライフバランス（「男女共同参画社会とワークライフバランス」、「男女共同参画社会の説明と現状」、「ワークライフバランスの現状」、「地方公共団体のワークライフバランスの取り組み」）

み）

第8章 子育て家庭の福祉を図るための社会資源（「子育て家庭の福祉を図るための社会資源」、「子育て家庭のための社会資源」、「フォーマルな資源」、「児童相談所」、「福祉事務所」、「児童委員・民生委員」、「ファミリーサポートセンター」、「インフォーマルな資源」）

第9章 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進（「子育て支援施策」、「エンゼルプラン」、「子ども子育てビジョン」、「待機児童ゼロ作戦」、「次世代育成支援施策」、「父親の育児参加」）

第10章 子育て支援サービスの概要Ⅰ（「子ども・子育て支援法」、「こにちは赤ちゃん事業」、「養育支援訪問事業」、「家庭的保育事業」、「子育て短期支援事業」）

第11章 保育所入所児童の家庭への支援（「保育所の子育て支援事業」、「保育所保育指針の改定」、「家庭への支援」、「認可保育所以外の保育施設」）

第12章 地域の子育て家庭への支援（「地域の子育て広場」、「地域の子育て家庭への支援」、「父親支援プログラム」、「地域子育て家庭への支援」、「父親支援プログラム」、「地域子育て支援拠点事業」）

第13章 要保護児童およびその家庭に対する支援（「障がいのとらえ方」、「障がいのある子どもをもつ親への支援」、「特別な対応を要する家庭への支援」）

第14章 子育て支援における関係機関との連携（「児童相談所などの行政機関」、「児童養護施設等の児童福祉施設」、「学童保育」、「児童館」、「専門職の役割」、「関係機関の連携」）

第15章 子育て支援サービスの概要Ⅱ（「児童虐待防止」、「発達障がいの支援」、「家庭支援専門員」、「今後の子育て家庭支援の課題と展望」）

第16章 多様な家族形態と子どもの育ち、第17章結婚、家族の事例研究

第18章 家族の介護、子育て等の事例研究執筆者紹介

4. 同演習の概要

各章とも記事を2種類ずつ掲載している。そして、その2種類の記事について、語句、用語や制度等を調べる「言葉を調べましょう」等の設問欄を3ないし5程度設け、それに引き続き、記事を読んだ感想を書き込む欄と

各章執筆者による解説で構成している。

例えば、第4章「保育者が行う家庭支援の原理」では、記事の見出しとして「小さな命、奪われる未来②」、「笑顔の娘川に落とした」、「育児疲れ母いなくなるしかない」、「夜間対応広がらず」を取り上げている。

ワークシートの設問および解説の項目は、以下のとおりである。

- (1) 「児童相談所」の役割とはなにか調べてみましょう。
- (2) 2008（平成20）年に「児童福祉法」改正で規定された「地域子育て支援拠点事業」の「地域子育て支援センター」の役割について調べてみましょう。
- (3) 保育者が行う家庭支援は数々あります。ここでは、その1つを調べてみましょう。
- (4) 保育所において保護者等が子どもの迎えを拒否したとき、保育者としてなにをすべきか考えてみましょう。
- (5) この事例に対して、利用できた社会資源はなにかを調べてみましょう。
- (6) この記事を読んだ感想を記入してください。
- (7) 解説 5つの設問の解答を記す。

3. 研究結果

「N I E家庭支援論演習の効果アンケート」の結果は次のとおりである。

アンケート実施日 平成31年1月24日

回答者 保育学科2年生1, 2組96名

設問1

1. この授業では、『N I E家庭支援論演習』を用いて家族、家族福祉関係等の制度、法律、語句を調べました。これは家庭支援論を学ぶことに役立ちましたか。

I よく役に立った	19人 (19.8%)
II 役に立った	27人 (28.1%)
III 少しは役に立った	14人 (14.6%)
IV どちらともいえない	22人 (22.9%)
V あまり役に立たなかった	7人 (7.3%)
VI 役に立たなかった	2人 (2.1%)
VII 全く役に立たなかった	5人 (5.2%)

2. III以下の役に立った方に質問します。役に立った理由を記入してください。

自由記述（学生の文章を使用）

- ① 家庭支援論に対していろいろな角度から考えさせられる記事が多かったから13名

- ② 家庭支援論について知らなかった部分を知れたから17名

3. V以上の役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

自由記述

- ① 書くことが多く、少し穴埋めにしてほしかったです。1名

- ② とても多くて、なかなか終わらない。1名

- ③ 記事の字が小さいので見づらかった。1名

- ④ 設問があるのに解説が載っていないことが多々あった。1名

- ⑤ 長い解説が多く、もっとわかりやすく説明してほしい。1名

設問2

1. この授業では、『N I E家庭支援論演習』を用いて章ごとの主題を学び、感想をまとめました。この作業はあなたにとって役に立ちましたか。

I よく役に立った 18人 (18.8%)

II 役に立った 19人 (19.8%)

III 少しは役に立った 21人 (21.9%)

IV どちらともいえない 27人 (28.1%)

V あまり役に立たなかった 3人 (3.1%)

VI 役に立たなかった 2人 (2.1%)

VII 全く役に立たなかった 6人 (6.2%)

2. III以下の役に立った方に質問します。役に立った理由を記入してください。

自由記述（学生の文章を使用）

- ① 自分の考えを書く習慣がついたから 7名

- ② 授業で学んだことや新聞記事の感想をまとめることに興味をもった 8名

- ③ 様々な新聞記事を読む機会が増えた 9名

- ④ 文章を書く力がついた。11名

3. V以上の役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

自由記述（学生の文章を使用）

- ① 書くことが多く、難しかった 5名

- ② 解説以外の用語、語句を調べていくことに時間が

かかった。1名

- ③ 長い解説が多いので、短くわかりやすくまとめてほしい。1名

- ④ 解説の内容を再検討してほしい。内容が難しい。1名

設問3

1. 『N I E家庭支援論演習』を用いた授業は、あなた自身の文章表現力の向上に役立ちましたか。

- | | |
|----------------|-------------|
| I よく役に立った | 18名 (18.6%) |
| II 役に立った | 17名 (17.7%) |
| III 少しは役に立った | 18名 (18.8%) |
| IV どちらともいえない | 33名 (33.4%) |
| V あまり役に立たなかった | 4名 (4.2%) |
| VI 役に立たなかった | 2名 (2.2%) |
| VII 全く役に立たなかった | 4名 (4.2%) |

2. III以下の役に立った方に質問します。役に立った理由を記入してください。

自由記述（学生の文章を使用）

- ① 以前より、文章表現の力がついた 8名
- ② 解説がわかりやすく、書いてあったので、分からない時や確かめたい時に役に立ち、自分の意見も書いてよかった。9名
- ③ 感想を書くことで、自分の意見や考えが明確になった。5名

3. V以上の役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

自由記述

- ① 演習の内容がよくわからなかった 5名
- ② 文章を向上させる内容ではない 2名

設問4

1. 『N I E児童家庭福祉演習』を使った授業の後、以前より新聞を読むようになりましたか。

- | | |
|-----------------|-------------|
| I よく読むようになった | 10名 (10.4%) |
| II 少しは読むようになった | 10名 (10.4%) |
| III もともとよく読んでいる | 7名 (7.2%) |
| IV 変わらない | 34名 (35.4%) |
| V ほとんど読まない | 4名 (4.2%) |
| VI 読まない | 29名 (30.2%) |
| VII 以前より読まなくなった | 2名 (2.2%) |

2. I・IIの読むようになったと答えた方に質問します。

読むようになった理由を記入してください。

自由記述（学生の文章を使用）

- ① ワークブックをすることによって、社会問題を理解することができた 3名
- ② 家庭、家族関連の記事に関心を持った 3名
- ③ 地元の記事に興味をもった 2名
- ④ 新聞記事を読むのが楽しくなった 2名

4. I・II・IIIの読む・読むようになったと答えた方に質問します。この実践前と比べて、新聞を読む時間はどのくらい増えましたか。

- | | |
|----------------|-------------|
| I 5分未満 | 17名 (17.8%) |
| II 5分以上10分未満 | 6名 (6.3%) |
| III 10分以上15分未満 | 4名 (4.2%) |
| IV 15分以上20分未満 | 0名 |
| V 20分以上 | 0名 |

5. I・II・IIIの読むようになった・読むと答えた方に質問します。新聞はどのような記事を読みますか。

- I 新聞全体 9名
- II 政治経済関係 2名
- III 家庭・暮らし関係 4名
- IV 芸能スポーツ関係 6名
- V 社会保障・社会福祉関係 1名
- VI 地元の情報関係 3名
- VII その他 2名

設問5

1. 『N I E児童家庭福祉演習』を用いた授業は、キャリア（就職）教育としてあなたにとって役立ちましたか。

- | | |
|----------------|-------------|
| I よく役に立った | 18名 (18.8%) |
| II 役に立った | 18名 (18.8%) |
| III 少しは役に立った | 12名 (12.5%) |
| IV どちらともいえない | 38名 (39.6%) |
| V あまり役に立たなかった | 1名 (0.9%) |
| VI 役に立たなかった | 2名 (2.1%) |
| VII 全く役に立たなかった | 7名 (7.3%) |

2. III以下の役に立った方に質問します。役に立った理由を記入してください。

自由記述（学生の文章を使用）

- ① 社会で生きていくうえで知っておくべきことを知れた 6名

- ② これからの社会問題や事件について知ることができたから 4名
- ③ 最近の家族問題や事件について知ることができたから 3名
3. V以上の役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。
- 自由記述（学生の文章を使用）
- ① よくわからない 1名
- ② 終わらせるためだけにワークブックを仕上げたため 1名
- ③ 何の役にもたっていない 1名

4. 考 察

- ① 『NIE家庭支援論演習』の授業実践において「家庭支援論」の科目を学ぶうえで何らかの効果はあった。
- ⑤ 『同演習』の授業実践をするうえで文章表現の向上に何らかの効果はあった。
- ⑥ 『同演習』の授業実践をするうえで一部であるが授業前より、新聞を読む学生は増えた。
- ⑦ 新聞を読んでいる学生は一部であるが、新聞を読んでいる時間は5分程度であり、読んでいる記事は「新聞全体」、「芸能スポーツ」、「家庭暮らし関係」、「地元の情報関係」、「政治経済関係」、「社会保障、社会福祉関係」である。
- ⑧ 『同演習』の授業実践は、保育等の就職のキャリア教育に何らかの有効性が見られる。

5. 結 論

これまでの研究から、新聞を読んでいる学生が少ないので、新聞を学生に日常的に読んでもらうには、何が必要なのかもう一度再検討が必要である。また、家族、家庭に対して、学生に興味関心をもってもらうには何が必要なのか検討が必要である。加えて、社会福祉・社会保障を含め国の制度・政策に係る記事に注目する学生も少ない。従って、社会保障・社会福祉の法制度や政治過程に対して大学教育等の中で目を向けさせることが改めて必要である。

「家庭支援論」の科目について、『NIE家庭支援論演習』

を用いての語句や感想文を作成することに対して、学生自身も有効性を感じている。しかし、その有効性の根拠がどこにあるのかはさらなる検討が必要である。さらに、文章力の向上や新聞をよく読むことの具体的な要因を探究し、実践方法をさらに検討を加えていくことが必要である。

また、今以上に短期大学教育の中で新聞を読む習慣や新聞を学習に活用する姿勢を身につけさせ、なおかつその効果を持続させるには、社会福祉教育の中で、NIE実践を繰り返すことが肝要だと考えられる。

それから、『同演習』を用いたNIE実践がキャリア教育に役立つか否かの調査では、「よく役に立った」、「役に立った」、「少しは役に立った」と答えた学生は、本実践がキャリア教育として役に立ったと考える学生が多くいることがわかった。この要因もこれから精査が必要である。

最後に、保育士養成課程として保育士に求められる「家庭支援論」の基本的な知識を身につけさせることは重要な課題である。新聞は、「家庭支援論」に対して目を向けさせる有力な手段であると考えられる。それとあわせて、短期大学教育として、社会において生活する者としての汎用的な力を身につけさせるため、新聞を読む習慣をつけ、新聞を学習に活用する姿勢を身につける工夫をしていかなければならない。また、文章を作ったり、まとめる技能も身につけさせることが必要である。職業教育にとどまらず、社会生活を送っていくうえでの汎用性のある技能として重要視されるべきものとする。

このアンケートの学生の生の声を尊重し、次の『同演習』の改定時、改めて内容を修正したと考えている次第である。

6. 終 わ り に

これまで、保育士養成のカリキュラムを中心に「社会福祉」、「児童家庭福祉」、今回の「家庭支援論」に焦点を充て、保育学生の意識調査を実施してきたが、今度は介護福祉士養成に焦点を充て、2019（平成31）年に4月に「NIE介護の基本演習」を公刊した。今度は、この演習の学生の効果や文章能力の向上、新聞の意識調査を実施、分析していきたいと考えている。また、保育学生

と介護学生の比較し,どのような傾向があるかを分析し,内容を論文で発信していきたいと考えている。

7. 参 考 文 献

1. 松井圭三・今井慶宗「教育課程における新聞活用ー保育学科の福祉教育での学生の意識調査の一考察-」中国学園紀要第13号平成26年度
2. 松井圭三・今井慶宗「保育学科学生におけるN I E 実践・社会福祉教育の一考察」日本N I E 学会誌第12号平成29年度
3. 日本N I E 学会編「情報読解力を育てるN I E ハンドブック」日本N I E 学会 平成20年度
4. 池上彰「新聞勉強術」文春文庫 平成22年
5. 齋藤孝「新聞力できる人はこう読んでいる」ちくまプリマー新書 平成28年